

二宮町地球温暖化対策実行計画

(区域施策編)

令和7(2025)年度の進捗状況

令和8(2026)年 月

二宮町

目次

1	趣旨	1
2	概要	1
3	令和7(2025)年度の主な基本方針別施策	3
	基本方針1 再生可能エネルギーの活用.....	3
	基本方針2 省エネルギー化の実現.....	4
	基本方針3 地域環境の整備・改善.....	5
	基本方針4 循環型社会の形成.....	6

1 趣旨

令和7(2025)年3月に二宮町地球温暖化対策実行計画(区域施策編)を策定し、4つの基本方針を軸に各種事業を展開中である。

平成25(2018)年度の温室効果ガス(二酸化炭素)の排出量を基準とした令和7(2025)年度の削減量及び令和7(2025)年度の取り組み状況について報告する。

なお、令和7(2025)年度の温室効果ガス(二酸化炭素)の排出量は、令和9(2027)年度まで把握できないため、代替値として令和5(2023)年度を活用するものとする。

2 概要

令和5(2023)年度の町域の二酸化炭素排出量は〇〇であり、基準年度比で〇〇%減少した。前年度と比較すると〇〇%減少となった。

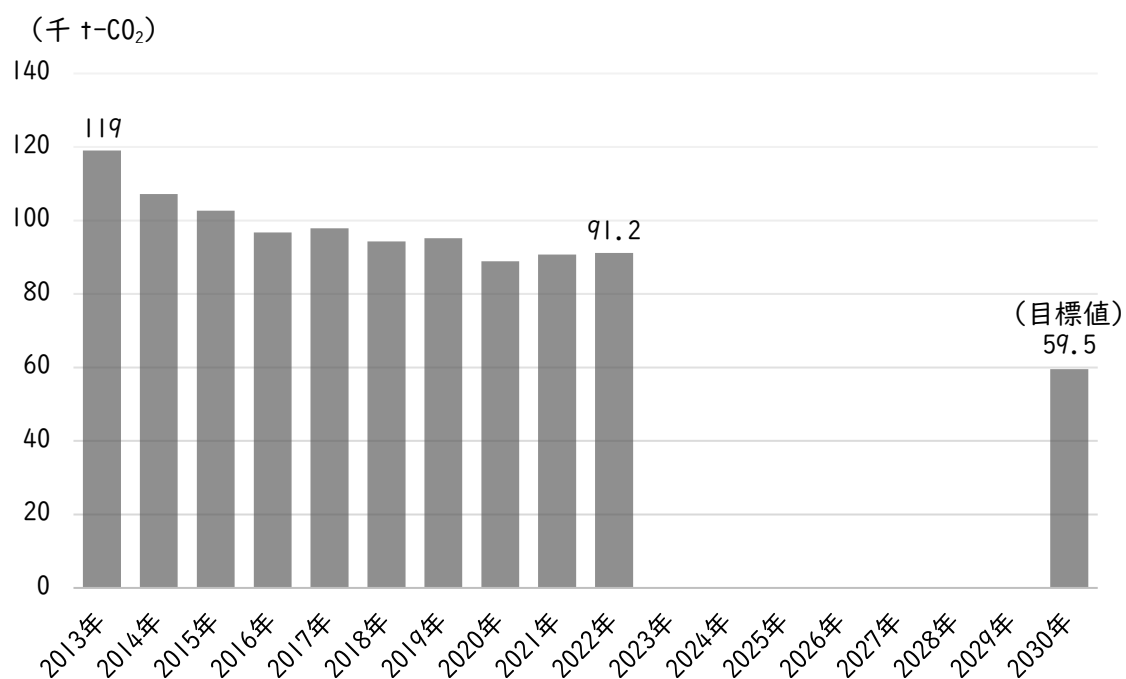
町域の温室効果ガス(二酸化炭素)の排出量

基準年度排出量 平成25年度	令和4年度 排出量	令和5年度 排出量	増減率 基準年度比較	増減率 前年度比較
119,000t-CO ₂	91,200t-CO ₂	t-CO ₂	-〇%	-〇%

進捗管理指標

基本方針	指標	令和7年度実績	目標値
再生可能エネルギー の活用	太陽光発電による 二酸化炭素削減量		5,683t-CO ₂
	太陽光発電による 発電量		13,064MWh
省エネルギー化 の実現	省エネによる 二酸化炭素削減量		13,149t-CO ₂
	総合戦略アンケートにおける 環境行動の実施回答者の割合		100%
地域環境 の整備・改善	森林吸収による 二酸化炭素吸収量		482t-CO ₂
循環型社会 の形成	ごみの焼却による 二酸化炭素排出量		1,252t-CO ₂
	ごみの焼却量		4,567t
	ごみの資源化率		39.1%

温室効果ガス(二酸化炭素)の排出状況



部門・分野別二酸化炭素排出量(千 t-CO₂)

部門・分野	基準年度 排出量 平成 25 年度	令和 4 年度 排出量	令和 5 年度 排出量	増減率 基準年度 比較	増減率 前年度 比較
産業部門	13.7	7.8		-〇%	-〇%
業務その他 部門	31.4	21.7			
家庭部門	37.6	32.2			
運輸部門	34.8	27.9			
廃棄物分野 (一般廃棄物)	1.4	1.5			

3 令和7(2025)年度の主な基本方針別施策

基本方針1 再生可能エネルギーの活用

指標	基準値	目標値
太陽光発電による二酸化炭素削減量	1,690t-CO ₂	5,683t-CO ₂

	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度
目標値	2,355	3,020	3,685	4,350	5,015	5,683
実績値						

指標	基準値	目標値
太陽光発電による発電量	3,885MWh	13,064MWh

	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度
目標値	5,414	6,943	8,472	10,001	11,530	13,064
実績値						

【指標に対する評価】

- A：目標達成に向け、指標の数値が前進している
- ⊕：指標の数値は前進していないものの、取り組み実績において一定の成果があった
- C：基準値より数値が低下しており、取り組みが後退している

【指標の分析】

- ・太陽光発電による二酸化炭素削減量は、〇〇t-CO₂となり、基準値から〇〇%増加した。
※太陽光発電による二酸化炭素の削減量は、電気事業者別の排出係数が計算に大きく関わるため、近年、電気事業者が環境配慮に力を入れていることで、基準値と比較して計算した値から排出係数が減少している。
- ・太陽光発電による発電量は、〇〇MWhとなり、基準値から〇〇%増加した。

【取り組み実績】

- ・神奈川県で行っている太陽光発電の補助事業（太陽光発電共同購入事業、0円ソーラー）の周知を行い、再生可能エネルギー導入拡大を図った。

【課題】

- ・新庁舎への太陽光パネル設置を検討しているが、その他の公共施設は、老朽化の影響から導入は困難であること。

【今後の方向性】

- ・太陽光発電の発電量を増やせるよう、継続して国や県の補助事業を広く周知するとともに、PPA等を活用した太陽光パネルの導入を検討する。

基本方針 2 省エネルギー化の実現

指標	基準値	目標値
省エネによる二酸化炭素削減量	—	13,149t-CO ₂

	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度
目標値						
実績値						

指標	基準値	目標値
総合戦略アンケートにおける環境行動の実施回答者の割合	—	100%

	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度
目標値						
実績値						

【指標に対する評価】

- A：目標達成に向け、指標の数値が前進している
- B：指標の数値は前進してないものの、取り組み実績において一定の成果があった
- C：基準値より数値が低下しており、取り組みが後退している

【指標の分析】

- ・省エネによる二酸化炭素削減量は、令和7(2025)年度の二酸化炭素の排出量が確定していないため、現在は把握できていない。
- ・総合戦略アンケートにおける環境行動の実施回答者の割合は、〇〇%となった。

【取り組み実績】

- ・中期目標の達成を目指し、省エネルギー化に関する様々な媒体活用した周知を行うとともに、個人と事業者を対象としたLED照明器具買換促進事業を行った。補助件数は、〇件となり、二酸化炭素の削減量は〇〇t-CO₂となった。

【課題】

- ・今年度は、補助事業を行ったが、次年度以降に継続して行えるかは不透明であること。

【今後の方向性】

- ・環境行動の実施率を上げるため、それぞれが自分事として、脱炭素に資する環境行動をとるよう、継続して促進策を展開していく。

基本方針 3 地域環境の整備・改善

指標	基準値	目標値
森林吸収による二酸化炭素吸収量	482t-CO ₂	482t-CO ₂

	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度
目標値						
実績値						

【指標に対する評価】

- A：目標達成に向け、指標の数値が前進している
- B：指標の数値は前進していないものの、取り組み実績において一定の成果があった
- C：基準値より数値が低下しており、取り組みが後退している

【指標の分析】

- ・森林吸収による二酸化炭素吸収量は、神奈川県が公表している神奈川地域森林計画を基に算出しているが、5年ごとに見直しを行う計画のため、令和9年度までは、現状維持となる。

【取り組み実績】

- ・中期目標の達成を目指し、移動の共同化を促進するため、小・中学校の夏休み期間中の小・中学生を対象に、コミュニティバス(にのバス)の運賃を無料化した。令和7年度のコミュニティバスの利用者は〇〇人であった。

【課題】

- ・山林整備について担当している課がないことから、整備が進むには民間事業者や町民団体等の協力が必要となること。

【今後の方向性】

- ・森林吸収量の維持のため、森林の適正な保全に努める。

基本方針 4 循環型社会の形成

指標	基準値	目標値
ごみの焼却による 二酸化炭素排出量	1,538t-CO ₂	1,252t-CO ₂

	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度
目標値						
実績値						

指標	基準値	目標値
ごみの焼却量	5,608t	4,567t

	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度
目標値						
実績値						

指標	基準値	目標値
ごみの資源化率	32.7%	39.1%

	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度
目標値						
実績値						

【指標に対する評価】

- A：目標達成に向け、指標の数値が前進している
- B：指標の数値は前進していないものの、取り組み実績において一定の成果があった
- C：基準値より数値が低下しており、取り組みが後退している

【指標の分析】

- ・ごみの焼却による二酸化炭素排出量は、〇〇t-CO₂であり、基準値から〇〇%の減少となった。
- ・ごみの焼却量は、〇〇tであり、基準値から〇〇%の減少となった。
- ・ごみの資源化率は、〇〇tであり、基準値から〇〇%の減少となった。

【取り組み実績】

- ・中期目標の達成を目指し、生ごみ処理機キエーロの導入補助を行い、令和7年度は〇件の申請があった。申請者がキエーロに1回の投入を〇gで年会〇回行ったと仮定する

と、〇〇gの削減となる。

- ・中期目標の達成を目指し、生ごみ処理機キエーロの導入補助を行い、令和7年度は〇件の申請があった。申請者がキエーロに1回の投入を〇gで年会〇回行ったと仮定すると、〇〇gの削減となる。
- ・令和7年10月から環境衛生センター桜美園への直接持ち込みの家庭用ごみに係る処理手数料を値上げし、ごみの減量を図ったことに加え、令和7年7月からリチウムイオンバッテリーの資源回収を開始した。

【課題】

- ・資源化品目を増やすには、莫大な費用がかかること。

【今後の方向性】

- ・ごみの焼却量の削減のため、リユースショップやフリーマーケットの活用を促進することに加え、資源化率の増加のため、民間事業者委託や広域ごみ処理による効率的な資源化策を検討する。